



第13回川崎港トライアスロン in 東扇島大会  
**新型コロナ環境下でのトライアスロン**

選手権審判長 青山 英司

2020年は年明けから新型コロナウイルス感染症の拡大により日常生活に様々な影響を及ぼし、トライアスロンにおいても多くの大会が中止、延期に追い込まれました。神奈川県内においてもシーズン前半は大会の中止が続きましたが、シーズン後半の大磯ロングビーチトライアスロン、川崎港トライアスロンin東扇島は大会に関わるすべての皆様のご協力もあり開催することができました。今回の川崎港トライアスロン大会in東扇島は初めて関東ブロック選手権、東京都選手権の2カテゴリーのエリートレースを開催することとなり、その審判長として参加しましたので大会を通して感じたことをご報告いたします。

まず、今までの大会と大きく異なった点としては様々な感染症対策が取られたということがあります。競技中以外のマスクの着用の徹底をはじめ、当日の会場での検温や、密を避けるような呼びかけを行いました。競技説明会についても従来は当日に行なっておりましたが今回は事前にWEB上にアップした動画を視聴していただく方式に変更し、当日は変更点の伝達のみを短時間で行いました。WEB上の競技説明会は、口頭のみより伝わりやすく、時間も長くとれるメリットもあり、エリートレースに慣れていない選手への注意喚起としてよくある違反例の紹介をしたことで神奈川選手権やカーフマンと比べ用具や収納の違反が格段に少なくなり円滑に競技を進めることができました。今後もこのようなWEB上での競技説明会が一般的になってくるかと思いますが、新型コロナ対策で従来と大きく変更になっていることが考えられるので慣れている大会でもしっかりと内容を確認するようお願いします。

また、競技については日本選手権の予選ということもあり、公平公正となるよう心掛けました。特にスイムのフォルススタートや、バイクの乗降車ラインではiPadで動画撮影を行ない、その場で動画を確認しながら裁定を下しました。過去は目視で判定していたこともあり、確証がなければ疑わしきは罰せずでしたが、今は証拠を持って確実に違反を指摘できるのでペナルティを取られないよう気をつけましょう。

2021年シーズンも新型コロナウイルスの感染状況やワクチンの接種状況が不透明ということもあり大会開催の判断も難しい状況にあります。大会が開催できたとしてもひとたび大会に関連するクラスターが発生すればその後の大会開催に影響を与えかねません。今後も継続して大会を開催していくためにも一人ひとりが感染しない、させないという意識を持った行動を心掛けていきたいと思います。

